

おんがくのアーティスト・イン・レジデンス 滞在スケジュール

開催日	2/21(月)	2/22(火)	2/23(水・祝)	2/24(木)	2/25(金)	2/26(土)	2/27(日)
会場	アトリウムプラザ 音の泉ホール	音の泉ホール	グランシアタ	リハーサル室	リハーサル室	音の泉ホール	音の泉ホール
10:00							
11:00							ミニコンサート (大分県立美術館)
12:00						ミニコンサート (大分県立図書館)	
13:00		小学生招待公演 ※時間未定	非公開 ジュニア オーケストラ 練習	非公開 アウトリーチ(日田市)			
14:00						ミニコンサート (大分県立美術館)	ファイナル コンサート
15:00	オープニング アクト (アトリウムプラザ)						
16:00					非公開 アウトリーチ(杵築市)		
17:00	公開リハーサル① 【定員 100名】 (音の泉ホール)	公開リハーサル② 【定員 100名】		公開リハーサル③ 【定員 30名】		公開リハーサル④ 【定員 100名】	
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							

渡邊 智道
ピアノ

宇野 健太
チェロ

長石 篤志
ヴァイオリン

水谷 晃

オープニングアクト

4名のアーティストによるレジデンスがスタート！
アーティストの紹介や演奏もお楽しみいただけます。

特設Instagramアカウント
oita_ongaku_air

レジデンスの様子をリアルタイムでお届けします！
インスタライブも開催予定。
皆様のご参加をお待ちしております！

#音楽のアーティストインレジデンス #大分 #おおいた #室内楽
#iichiko総合文化センター #iichiko音の泉ホール #西洋音楽発祥の地
#音楽を創る #水谷晃 #長石篤志 #宇野健太 #渡邊智道

公開リハーサル

入場無料 要事前予約(全席自由)

ファイナルコンサートに向けたリハーサルの様子を皆さんに公開。開始前に簡単な曲目解説を行い、希望者には楽譜を貸出します。音楽の道を志す人も、純粋に音楽を楽しみたい人もぜひご来場ください。

予約 tel. 097-533-4004

こちらからもお申込できます



氏名、参加人数、メールアドレス、電話番号をお知らせください

ミニコンサート

図書館や美術館で聴く音色はどんなだろう?! 磯崎新や坂茂の建築も味わいつつ、ホールを飛び出した音楽に耳を傾けてみてください。入場は無料です。

ファイナルコンサート

本プロジェクトのフィナーレを飾る室内楽コンサートです。7日間の過程を振り返りながら、華やかなひとときをどうぞお楽しみください。

2022年2月27日(日)
13:15 開場 14:00 開演 16:00 終演予定
iichiko 音の泉ホール

曲目
C.P.E. バッハ: 四重奏曲ト長調 Wq.95
モーツァルト: ピアノ四重奏曲 第2番 変ホ長調 K.493
ドヴォルザーク: ピアノ四重奏曲 第2番 変ホ長調 op.87
※曲目は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください

チケット情報

料金 一般 2,000円、U25 割 1,000円
[びび割 KOTOBUKI 1,700円、TAKASAGO・UME 1,800円]

発売日 びび 2021年12月2日(木)
一般 2021年12月9日(木)

取扱先 iichiko 総合文化センター(1F インフォメーション / ホームページ)、
トキハ会館、トキハ別府店、エトウ南海堂、チケットぴあ(Pコード: 192-255)、
ローソンチケット(Lコード: 83079)

2022

おんがくの
アーティスト・イン・レジデンス



2/21 mon - 27 sun

iichiko 総合文化センター

大分出身の若き音楽家たちが
「音楽を創る」7日間


助成 文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 一般財団法人地域創造

特別協賛 三和酒類株式会社

後援 大分県 大分合同新聞社 OBS 大分放送 TOS テレビ大分 OAB 大分朝日放送 エフエム大分 J.COM 大分ケーブルテレコム シティ情報おいた

主催・お問合せ iichiko 総合文化センター〔(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団〕 〒870-0029 大分市高砂町 2-33 tel. 097-533-4004 https://emo.or.jp

公演の詳細はこちらをご覧ください



iichiko 総合文化センターに滞在しながら音楽を創る 開館以来、初のプロジェクト。

「アーティスト・イン・レジデンス」とは、アーティストが一定期間その土地に滞在しながら作品の制作を行う芸術プログラムのこと。また、それを支援する事業のことです。iichiko 総合文化センターでは、1998年の開館以来、初めての試みです。当センターは、県都・大分市の中心市街地に位置し、2つの素晴らしいホール、練習室、ホテルまでが建物の中に揃う複合型施設で、じっくりと「音楽を創る」ことに集中できる環境が整っています。

今回は、県内外で活躍する4名の大分県出身アーティストを招聘することが叶いました。メンバー全員の初顔合わせは、プロジェクト初日。まさに“出会う”ことからスタートし、ファイナルコンサート開催までの7日間、iichiko 総合文化センターの施設をフル活用しながら、またさまざまなことに取り組みつつ音楽を創ってもらいます。そしてその過程は、公開リハーサルやSNSを通じて観客の皆さんにもシェア！普段は見られない音楽家たちの素顔にも触れ、音楽の魅力をいっそう感じていただきたいと思えます。存分にお楽しみください。

音楽家

音楽的実験の場。長期滞在し、コンサート本番に向けて研鑽（けんさん）を積み、曲への理解や技術向上を目指す。後進の指導にもあたり次世代の音楽家も育成。

観客

音楽家が曲づくりと向き合う姿に触れる。大分ゆかりのアーティストの演奏を通じて、郷土への愛や誇りを醸成。

Concept

アーティスト・イン・レジデンス

1 4名の音楽家が音楽を創る

滞在中、音楽家たちは最終日に予定されているファイナルコンサートを目指して練習を重ねていきます。その過程を「公開リハーサル」で一般公開。



2 アウトリーチ活動

期間中、県内の学校へ出かけます。遠方なため、日頃ホールへ足を運びにくい地域の子どもたちに、本物の音楽を届けます。

5 ファイナルコンサート

公開リハーサルやアウトリーチやミニコンサートを開催いただいた皆さんと出会い、1週間滞在して創り上げた音楽をコンサートで聴いていただきます。

6 SNSでも発信！

プロジェクトの様子は都度インスタグラムで配信。ホールの外側にいる人とも繋がりながら音楽を創り上げていきます。

4 未来の音楽家をレッスン

次代の音楽家を担う未来の音楽家たち、iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラへのレッスンをを行います。

※演奏中の写真は、2020年に開催した「びびニュースタイルハッピーコンサート」の様子
出演：水谷晃（ヴァイオリン）、宇野健太（チェロ）、渡邊智道（ピアノ）、TAIRIK（ヴィオラ）

参加アーティスト



Violin
水谷 晃
Akira Mizutani

1986年生まれ。大分市出身。中島小学校在学中に父の転勤で5年間インドネシアへ。桐朋学園大学を首席で卒業。ウェールズ弦楽四重奏団初期メンバーとして在学中にミュンヘン国際音楽コンクールで第3位入賞。2010年4月より群馬交響楽団コンサートマスター（当時国内最年少）に就任。現在は、東京交響楽団コンサートマスター、オーケストラ・アンサンブル金沢客員コンサートマスターのほか、桐朋学園大学等で後進の指導にあたる。

Message 音楽の可能性を信じる

故郷・大分。古来から新しい文化を柔軟に取り入れたこの地は、日本における西洋音楽発祥の地とも言われています。昨年、新型コロナの影響で演奏会が中止となり、音楽界全体が活動自粛へと追い込まれていく中、漠然と浮かんできたことが、自分の故郷で音楽を通して何かできないか、ということでした。それも、コンサートホールだけでなく、生演奏が届けられるあらゆる場所で。

人と人との間に「ディスタンス」が叫ばれる今、それを繋ぐのは言葉だけでなく、音楽の可能性もあると思うのです。

様々な場所で皆さまとお目にかかれまことを楽しみにしております！



Viola
長石 篤志
Asushi Nagaishi

大分県出身。杵築高校卒業。4歳よりヴァイオリンを始める。第24回及び第27回大分県音楽コンクールで第1位を受賞。福岡教育大学芸術コース卒業、同大学院修了。フィレンツェへの留学を機にヴィオラへ転向。フィエーゾ音楽院にてアントネッロ・ファルッリに師事する。帰国後は東京に拠点を移し、東京フィル・群馬交響楽団・仙台フィル・日本センチュリー響等、ゲスト首席として出演。また、幅広いジャンルのレコーディングにも参加。日本クラシック音楽コンクール全国大会審査員。

Message 刺激的な企画にしたい

たくさんの優秀な音楽家が集った大分ですが、若手にスポットを当てて頂いたこの企画を熱く刺激的なものにしていきたいです。地元大分で、しかも大分出身者同士で集まり演奏できることにワクワクが止まりません！さまざまな場所で演奏させていただけるのと、聴いていただける皆さんと共に音楽を作り上げていきたいです。

現在は東京を拠点に活動していますが、カボスは毎年東京に送ってもらって、演奏仲間に配っています。また、よく、わっつんとパークブレイスに行く夢を見ます。



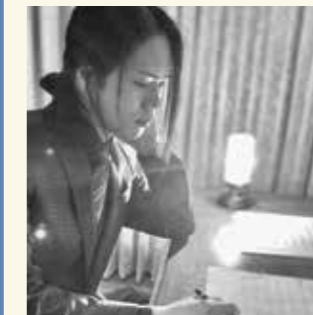
Cello
宇野 健太
Kenta Uno

大分県日田市生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、ウィーン私立音楽芸術大学を最優秀の成績で卒業ならびに同大学院を最優秀の成績で修了。またグラーツ国立音楽大学現代音楽演奏学科にて「クラングフォーラム・ウィーン」のもとで現代音楽の演奏法を学ぶ。2017年、クライバダ国際チェロコンクール第2位、同年パドヴァ国際音楽コンクール弦楽器部門第1位、総合部門第2位を獲得。2020年より九州を拠点に活動。

Message “大分ならではの”何かを

大分県出身音楽家による一週間、すごいプロジェクトが動き出しました。日田人も大分県人と認めてもらえて、ありがたいです(笑)。初めての試みで色々としりこみながらになりますが、素敵かつ愉快な仲間達と頑張ります。4人の中では唯一県内在住者なので、“大分ならではの”を発見できるよう皆さまともコミュニケーションがとれたらいいなと思っています。

余談ですが、ウィーンに住んでいた頃はこちらからいちごを買って帰って大事にちびちびと飲んでました(笑)。好きなものは麦焼酎、唐揚げ、甲斐拓也。大分人丸出しでがんばります！



Piano
渡邊 智道
Tomomichi Watanabe

別府市出身。ピアニスト、作曲家。協奏曲客演、独奏、伴奏、室内楽などの演奏活動を展開。2019年、ディスクアート(発売元・コンフォート)より、1887年製ニューヨーク・スタインウェイ、'ローズウッド'を使用したデビューアルバム「渡邊智道 バッハ&ショパン」をリリース。2021年、ホロヴィッツ愛用のニューヨーク・スタインウェイ、銘器'CD75'を使用したアルバム「Classic Recording」をリリース。

Message 心に届きますように

作曲家・ラフマニノフはアメリカに渡って、東洋系の外見から来る差別と闘いながら、故郷ロシアの風景に自らのルーツを見出し、生涯を過ごしました。ショパンは、若くしてフランスへ旅立ちましたが、この世を去るまで、ポーランドの民族舞曲を書き続けました。彼ら作曲家に触れ勇気を貰いながら、大分を離れて15年経過してきましたが、こうしてまた故郷の企画に携わり、自分を育ててくれた土地に帰ることが出来るということは、ひとえに夢のようです。

親愛なる音楽仲間達と共に、心を込めて取り組みます。皆さまの心へ、芸術の力と、そして生きる勇気が、届きますように。